

立川運輸株式会社に勤める加賀は、預金残高を確認するために、銀行に電話を入れた。

「ありがとうございます。神奈川銀行富岡支店でございます」

「私、立川運輸株式会社経理部の加賀と申しますが、当座預金の残高を確認したいのですが」「かしこまりました。それでは折り返しお電話でお知らせすることになります。よろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

「では、お口座番号とお名前、それとお届けになっているご住所とお電話番号をお願いいたします」

「はい、口座番号が当座預金の五五一九八五二、立川運輸株式会社です。住所は横浜市金沢区鳥浜町九一五―十一、電話番号は〇四五―五四四―九一八一です」

「かしこまりました。私、武田と申します。すぐにお調べして折り返しかけ直いたします」「よろしく願います」

受話器を置いてから数分後、加賀あての電話が取り次がれた。

「加賀さん！ 神奈川銀行の武田さんという方から五番にお電話です」

「はい、加賀です」

「もしもし、神奈川銀行富岡支店の武田と申しますが、加賀様でいらっしゃいますか？」

「はい、そうです」

「先程お問い合わせいただきました、当座預金残高を申し上げますがよろしいですか？」

「はい、願います」

加賀はあわててメモの用意をした。

「ただ今の残高、五十五万九千五百九円となっております」

「五十五万九千五百九円ですか？ ええと振込が一件あったと思うんですが・・・」

「そうですか。どちら様からおいくらくのお振込ですか？」

「木田工業株式会社から九十五万円振り込まれているはずですよ」

「それでは振込の確認をしてみますので、少々お待ち下さい」

受話器からは保留のメロディが流れ、数十秒後、

「大変お待たせいたしました。ただ今お調べしてみました、木田工業株式会社様からのお振込は今のところないようです」

「確かに昨日、手続きを済ませたと言っていたんですけれど」

「電信振込か文書振込、どちらで手続きされたかおわかりになりますか？」

「いいえ、わかりません」

「電信扱いですと当日入金になりますが、文書扱いですと入金までに多少お時間をいただくこととなりますので、おそらく先方様は文書扱いで振り込まれたのではないのでしょうか？」

「そうかもしれません。ではその場合、入金されるのはいつ頃になるのでしょうか？」

「通常は二、三日で入金となります」

「そうですか。早ければ明日には入金されるかもしれませんがね。ではまた明日、確認してみます。ありがとうございます」

加賀は少しホッとした表情で受話器を置いた。